

野川流域連絡会 第3期
第4回野川流域連絡会全体会
議事録（速記録）

日時：平成19年12月4日（火）18時～20時30分

場所：調布市文化会館「たづくり」12階大会議場

次 第

- 1 開 会
- 2 座長挨拶
- 3 話題提供
 - ・「川の日」ワークショップと「全国の市民活動の動向」について
講演者；山道省三先生
NPO 法人 全国水環境交流会代表理事・東京農業大学客員教授
 - ・講演後の質問と意見交換
- 4 議 題
 - (1) 分科会の活動状況報告及び意見交換
 - (2) 部会の活動状況報告及び意見交換
 - (3) 第3期の任期と活動報告会について
 - (4) 全体討議
- 5 報告事項
 - (1) 野川自然再生に関する状況報告（東京都・北南建）
 - (2) 国分寺崖線保全フォーラムに関する報告（国分寺市）
 - (3) 野川に関する調査・研究状況報告（東京都土木技術センター）
 - (4) 野川における工事状況と予定（東京都二建・北南建及び世田谷区）
 - (5) 今後の予定・その他意見
- 6 ま と め（座長）
- 7 閉 会

1 開 会

司 会 皆さん今晚は。定刻になりましたのでこれから第3期第4回の野川流域連絡会を開催致します。本日はお忙しい中、またお寒い中を流域連絡会に参加頂きましてありがとうございます。私は本日司会を担当致します北多摩南部建設事務所工事二課長の上田と申します、どうぞよろしく申し上げます。それでは会を始めます前に座長からご挨拶を頂きたいと思ひます、どうぞよろしく申し上げます。

2 座長挨拶

座 長 皆様お忙しい中、ご苦労様でございます。3期の野川流域連絡会も残すところ四半期の内のあと一つというところまでやって参りました。2年がそろそろ経つのですが何かちょっと短い気がしますね、あっという間に3期が終わるのかなという、そんな気がします。2000年から始まりましてもう今年で7年目に入ってきているということですね。7年という決して短くないわけで、その間にいろいろな変化があったというように皆さんも思われていますね、特に最近環境に関する変化というのは加速度的に早くなっているのかなという、そんなことも感じるわけです。それで野川の流域連絡会についてもそろそろ3期のまとめの時期に入ってきているわけです。3期をまとめなければいけないという事と、1期からの長い目で見ますとこれから先どうするのか、そろそろ10年目というぐらいの所も見えてきました。今回のまとめにあたってはちょっと長い目と申しますか、広い視野と申しますか、そう言う事も少し視野に入れながら望んだらどうかと、そんなふうに思っています。そう言う意味では今日、冒頭に学習会と申しますか話題提供して頂く山道さんにきて頂いているのですが、とても良い話題になるのではないかと申しています。

司 会 どうもありがとうございました。お手元にたくさん資料が配られておりますので、その確認をした上で会に入って参りたいと思ひます。

【資料確認】

3 話題提供

司 会 それではこれからの進行は座長にお願いしたいと思ひます、よろしく申し上げます。

座 長 そうしましたら話題提供に移りたいと思ひますが、今日の山道さんの講演を頂くという事でちょっと私の方から簡単にプロフィールをご紹介したいと思ひます。今日は川の日ワークショップという話をして頂くのですが、これは再三、私が川のワークショップにでも応募したらいいのではないかと申していた、ただなかなか現実味がわからないので、まずは報告していただいた

らどうだろうかということで、山道さんに来ていただいたという事です。長崎県長与町のお生まれということで、東京農業大学を卒業されまして造園学科、空手部出身（笑）という事でよろしいですか。長く財団法人の東急環境浄化財団、その専任研究員をされて、私もだいぶお世話になりました。それからNPO法人の多摩川センター代表理事、全国水環境交流会の全体の理事、ご自身としても山道アトリエという計画の事務所をやられています。今年の三月からは東京農業大学の客員教授に就任されているという事です。そんなことでいろいろな活動の運営関係の仕組み作りに興味を持たれて、各方面で活躍されているということでございます。では山道さん今日はよろしく申し上げます。

講師 皆さん今晩は、山道と申します。今日は久しぶりに調布駅に来まして駅前が全部再開発で変わっているなどビックリしました。今日は神谷さんからいろいろと全国の情報を皆さんに紹介して頂ければという事で来ました。特にいまお話がありました川の日ワークショップという事で、市民が主導し、実行委員会を作りまして、年に1回やっています。今年の7月で第10回目、10年を迎えました。それを川の日ワークショップとっているわけですが。そこに参加した団体や個人を私が10年を記念してまとめたのですが、720数団体が東京に来て発表しております。それからいま全国8箇所地域大会というのをやっております、先週の土日は九州の大分で世界水フォーラムをやっております、その一環でやりました。その前の週は東北でやったという事で、各地域でとにかく自分たちの川への思いというものを発表してお互いに知恵なり元気なりをもらって、それで自分たちの活動に活かしていこうと、それで更に自分たちの地元の川の保全、環境の保全整備に生かしてみたい、こういう思いの方々がたくさんおられまして、地域でもそのように一生懸命やっておられるような会でございます。お手元に今日の話提供で「川の日ワークショップと全国の市民活動の動向について」というペーパーが2枚ほどあるかと思いますがそれを基に少しお話しをさせて頂いて、活動の事例をパワーポイントでご紹介出来るかと思えます。皆さんの活動に何らかのヒントなり、お役に立てればという思いでお話しをさせて頂きたいと思えます。お手元の資料の中でいま川の日ワークショップの概略を紹介しましたが、実は川の日というのを毎年7月7日、七夕の日に国土交通省が粋な事をしたというように思うのですが、川の日にしたという事で記念行事として講演とシンポジウムをずっとやって来たのです。担当の方から役人の考えるものはほとんどもろくな事はないという事で、ちっとも面白くない。半分以上は寝ている。寝ないようなイベントを考えてくれないかと言われまして、川の日の日大会になったわけです。いまご紹介したように10年間で720数団体が参加しておりまして、全国で地域大会を含めると

千五六百、皆さんいろいろな所で発表したり活動したりしておられます。特に韓国で今年6回目になったのですが、この川の日を全くコピーして持って行って韓国の川づくりを官民学者を含めて韓国川の日大会を一生懸命やっています。すばらしいエネルギーで韓国の川づくりはどんどん変わって来ているということでもあります。それもこの川の日ワークショップがもたらした大きな成果の一つかなと私自身は思っています。それ以外に日本の川や水辺の団体というのは河川協会で調査を4、5年前にやったのですがだいたい5、6千団体あるそうです。川、水というのを含めて、勿論街づくりとか福祉とかあるわけですが、それを整理したものが1ページ目に図があるかと思えます。真ん中に良い川づくりということを通して美しい国土の形成とか豊かな生活などを目的に、全国の活動の傾向を整理をしてみますと、4つぐらいカテゴリーを分けられます。上の方からいきますが、地域情報の収集発進の役割、これはもう皆さんも含めていろいろな形でやっておられます。いまもう北海道とか山口の市民団体が乗り込んで行って川情報を発信しているとか、ペーパーやインターネットを含め、流域ネットが現場等の情報をとにかくやりとりしているという事でもあります。この中に環境モニタリングの実施という事で、自分たちがいろいろな情報を集めてそれを少し翻訳を含めてメンバーとか会員に配っていたのですが、自ら調査をやるという事はもう各団体、日常活動になっています。これは特に学者のように細かい分析とかを必要とするものではなくて、市民の目線でとにかく情報を集め、生きものとか水質だとかそれから歴史文化の情報も含めて自分たちが集めてその配信を始めています。市民団体がその地域のデータベースとしていこうという事です。これは実は非常に大事な事として、このデータベースを基にして河川改修とか地域の開発などが起きたときに、実はここにはこういうものがあつたんだとか、こういういわれがあるのだとかいう事を常に情報として出していくという極めて重要な役割を持っているという事です。市民団体の特徴は科学的な精緻な情報ということではなく、やはり単純な事を継続してやるという事に意味がある。ご承知のように多摩川の自然を守る会の30周年のストックなどは貴重な情報だと思いますね。全国でいま自ら調査をやって、それをその川づくりに反映させていこうという動きが出ています。それから川のリーダーやアドバイザーの養成ということですが、これは後で出てきますが、そういう情報を持って川づくりに市民の視点からアドバイザーという形で参加をしていくということです。そういう意味で多自然川づくりの中で地域アドバイザーみたいなものをきちんと仕立て上げて、表現は悪いのですがコンサルタントというのはその地域に張り付いて仕事をしているわけではないんですね。業務が発生した時に来ている。それよりもそこでいくつか調査をやったにしても、そこに数十年住んでおられる方の情報というのは圧倒的なボリュームと大

事さがあるということです。ですから是非そういう情報をコンサルタントなりあるいはその川づくりの管理者に対して出していった計画づくりから維持管理までも含めて参画をしていく。いわゆるまち普請、川普請という発想の役割を持つだろうと思っています。同時に川の事を継続的に伝えていくためのリーダー養成みたいな事も合わせてやっていく。いま世代交代をどうしていくのかという各団体とも非常に大きな問題をかかえています。防災それから水難救助も含めてリーダー養成をする。いま民間レベルそれから行政レベルを含めて様々な所でやっております。それから川の交流拠点づくりなんですが、そういうそのネットワークをつくっても本当に小さな小屋でも良いんです、こういう拠点があると人の動き、情報の集め方が全然変わってくるんですね。ですから一つはこれから大きな課題になるかと思いますが、川の交流拠点作りを様々な形でやっていく。いま川の駅という言葉で国交省の審議会の答申の中に盛り込まれて、あちこちで川の駅を作ろうとしています。これをどうするかはこれから議論しなければいけないのですが、例えばそういう拠点作りみたいな事も皆さんせさせとやっておられる。時間が10分ぐらいしかありませんので先に行きますが、もう一つ民間のところで地域防災への協力参加。これは川のワークショップの中でもここ1、2年、要するに防災を自らやっという団体がさまざまな活動、仕組みを作って発表に来られています。この1、2年の川の日ワークショップの特徴は防災という視点で市民団体の人たちがアクションを起こしていくのかという事を皆さん提案して発表しておられます。一つだけ紹介しますが北海道の団体の中で子ども水防団を作ったんです。どんな組織だろうと思いました。よく聞いてみるとそれは子供たちが土嚢づくりとかそういうことではなく、ここで昔水害があったという事をこの地域の人たちを夜に訪ねていってお話しを聞こうとする会なんですね。これで地域を見る目が子ども達はずいぶん変わってきた。川を見る目が変わってきた。例えばそういう事を含めた防災活動というのもやはり自分たちで自ら提唱していこうと。最終的に水害などはやはり自分たちが被害を受けるわけです、そういう視点を持つようになりまして。それから市民団体の流域ネットワークによる地域防災計画の見直し、これらが情報として上がってきております。それからFMを通じた緊急時の情報伝達システムとかそういう発表があります。それから左下、街づくりの参加という事ですが、これは森川里海のネットワークづくりも含めていま森の人たち川の人たち里の人たち海の人たちと交流しています。いまそういう地域づくりのネットワークをしつつあります。それからリバーミュージアムやリバーツアーの実践。リバーミュージアムはこれは丸ごと博物館という発想で流域の様々な伝統文化を含めた情報を集め、そこで人材を養成して学芸員を育てよう。それからリバーツアーもこれは大野川とかいろいろなところでいま活発に

自ら企画をしたツアーをしようとしています。一つだけ申し上げますが宮崎の五ヶ瀬川というところではカヌー修学旅行を、カヌーツーリングで修学旅行をやるというような発想で、修学旅行の学生達を誘致しています。右側の方に福祉教育学習活動とありますが、この中で特筆すべきは福祉や医療を活かす活動という事で世田谷には多摩川いやしの会というのがありますが、全国でそういう川を使った医療活動、福祉活動をやるという動きがあります。特に秋田本庄市の第一病院に子吉川という川が流れていますが、その縁に病院があるのですが、2階から堤防までデッキを通して川の中に車いすが通れるような場所をつくり、これに患者を乗せて1日1時間散歩をするだけで睡眠状態が抜群に良くなる。薬の効き方が良くなる。それから食欲が出るという事で血圧や血糖値が極めて改善されるというデータを既にとっております。というように様々な活動を全国でやっておるわけです。その次のページの所に川の日ワークショップ、今回の入賞一覧表というのがあります。ここの中に今申し上げたものが幾つかあります。ここで一つご紹介したいのですが。準グランプリの大阪の寝屋川市の人たち、毎年参加しているのですが、90%近くも下水処理水が流れる川なのですがこれを見事に町の人たちに親しめる水辺に作り上げたという、非常に優秀な事例がここに紹介されております。それから入選、グランプリとか準グランプリに入賞とかがありますが、先ほど申し上げたのは入選のところの山口の防災ネットワーク推進会、これは行政と一緒にやっています。それから下の入選の所の筑後川流域連携クラブによる丸ごと博物館というようにですね、いろいろな人たちがいろいろな活動をしています。それで最後のページなんですけど、やはりこういう活動を進めるにあたって最終的な目標というのは自分たちが付き合っていく川を自分たちが本当に愛着を持って付き合えるような川づくりを行う、あるいは川との関係づくりというのが非常に大事なんだろうと思います。我々は行政と協力しつつ、水質が少々汚くても愛着がある川というのはやはり地域にとってはいい川なんですよね、そういうようなものを目指していこうと思います。川の日ワークショップの活動や日常やっている事例を含めて川や水辺の活動を充実していく。そして国の政策であります川づくりの中には是非その我々の思いを伝えて、いい川の実現をしていく。こういうプログラムを構想として持っているわけでありまして。ということで写真を見て頂きます。これは千歳川という北海道の恵庭とか千歳市を流れている川です。これはNPO法人の水環境北海道がやっています。この人は妹尾さんという生態研究者なんですけど、しょっちゅう水中写真を撮っている。これはライフジャケットを子どもが付けていますが、このまま川の中に放り込みます。それで子ども達は自由に川のながれとともに全身で川体験をする。このサポートはだいたい下流の方に10人ぐらい、流れてきて何かあった時のため大人が待っているわけです。

これはもう随分長くやっています、2000年あたりからやっているのかな、この中の子ども達が育って行って逆にリーダーのサブをやるようになる活動をやっておられます。これは同じく北海道でこのあいだ行なった車いす体験です。こちらに道の駅があるのですがそこから下りてきて坂だとかぶつかり方だとか方向転換の仕方とかということをとにかく体験しようという事でやっております。これはハンディをもった人を川の中に誘えるような構造も含めてやっております。それからこの車いすそのものの構造も川用の空気が入るタイプの車いすを開発しようとか、あるいはこれ丸ごとテントをバツと上から被せればトイレにもなるよという事も考えられるのではないかと実験をしています。要するにバリアフリーの川づくりというのはもう全国で行われています。これはやはり北海道です。これは段ボールを使った雪中植林という技術で、廃物の段ボールをポットに仕立て上げて、木をさして冬場に雪の中に放り込んでおきます。埋めておきます。それで春になって表に出しておくだけなんです、それで活着率が抜群に高くなるという事です。これはいまNPOが特許を得てあちこちで植林しています。これもNPO法人が池とかそういうところの水質浄化とか生態系のレベルアップのためにこういう浮島を作りましょうという事で竹だとか材木を林業者と提携をして子ども達に浮島を作ってもらおう。いま越谷にレークタウンというのをつくって皆さんと一緒にどういうふうに街づくりをやるかというのをやっているのですが、そこでもこういうものを民間の人とやっています。はい。これは斐伊川という島根県の川です。これはモウソウチクにドリルで穴を開けています。実はこれ宍道湖周辺の水辺のヨシを植生させるために、この中にヨシの苗を入れてこれを打ち込むわけです。そうすると安定しますので、それでもってヨシ原を復元させようという事です。これも実はNPO法人、斐伊川クラブというところの特許です。これは引地川という川の復元工事です。柳を植えたりなど、とにかく自ら体を動かして川の自然再生を図ろうという事です。ハグロトンボの回復状況を調査をしている。そして、こういう川が出来たわけです。これは岡山県の旭川の活動で、源流の碑というのを、旭川の源流まで訪ねて行って建立しようと、単純なそれだけのイベント。河口から3、4カ月かけて土日ですが、リヤカー引いてこの上に源流の碑という木があるのですが、それをテクテク歩きながら途中でバトンタッチをしながら、毎年源流に碑を建てている。上流はご承知のように源流がいっぱいあるんですね。数年先まで予定が決まっている。これでもって旭川流域ネットワークというのが出来ています。建立をする前の日にシンポジウムをやったりして源流は元気になったそうです。これは、砂利川原の復元をするためにどのような植栽や維持管理をすれば良いのかというのを、岡山市とそれから市民団体も一緒になって調査をしている所です。これはオオキンケイギクという外来種がすごく増えて

いるのですが、なんとかこれを川に侵入させないような事も含めて調査をしています。そういう河原に試験区をつくってこれでこの中に種を蒔いてやるのですが、洪水との関係でどうなっていくのかを調査や実験をしています。これは先ほど申し上げた寝屋川の人たちです。日々の活動でこういう川づくりをやってきました。これは情報収集活動。土岐川庄内川の交流会は全川を歩きながら川の魅力発見プロジェクトというのをやっています。川の日ワークショップはこういう形で毎年行われています。これは一次選考会ですね。これは二次選考会。これは韓国川の日大会です。日本より韓国の人たちは発表に力を入れてものすごいエネルギーで皆さん発表されます。これでチョンゲチョンの改修という直接は繋がっていないのですがそういう気風が出てきた、極めて韓国の人たちのエネルギッシュな活動成果と思っています。以上です。という事で川の日ワークショップの話はただ発表すればいいという事ではなく、自分たちが発表した事に対してやりとりをやる、発表は3分しかありません。3分で北海道から来て冗談じゃないという人もいますが、じゃあ何分だったらいいのという話も議論になりまして、5分だ、10分だという話にもなりましたが、3分発表して7分やり取りをやるという、一次選考それから復活選考、二次選考、それから全体討論会という2日間を通して要するに議論をしましょうという事になりました。そこで自分たちの活動を発表して返ってくる答え、あるいは他の人たちの発表を聞いて自分達の活動にとにかく反映をしていこうという事です。ですからすぐ似たような活動をやっているところは友達になったり、鹿児島と福島の人たちが交流を始めたり、お互いの意見交換と情報交換、そういう意味でもものすごく活発になったと思っています。従いまして全て、選考委員も勉強するんだというスタンスでいまやっております。ここに今日5部しか持って来ていませんが、回し読んで頂いて第9回のワークショップのレポートを見て頂ければと思います。それからもう一つ日本いい川シンポジウムというのをやっております。今年の2月にやったのですが、来年の2月にまたやりますので、この報告書、チラシも含めて用意しております。ご覧になって頂いてご参加頂ければと思います。ちょっと舌足らずの話でしたがこれで終わります。

- 講演後の質問・意見交換 -

座長 山道さんどうもありがとうございました。私も第1回から選考委員に参加していますが、とにかくものすごいエネルギーなんですね。皆さん、すごく一生懸命パワーを入れてやっています。それも十回重ねているものですから全国の川で活動している人たち、みんな顔が繋がっているんですね。なかなか大変な組織だと思います。折角の機会ですのでちょっと時間はおしているのですが、ぜひ質問とかお聞きしたいという方がいらしたら手をあげてください。よろし

いですか。野川というのはおそらく出せばグランプリが取れるのではないかと
いうぐらいの、実は内容があって、30年もやっているわけですよ、全国で
もいちばん長いぐらいの一つですね、湧水保全という事も水みちも野川発なわ
けですね、そういう意味ではたくさん活動をしていて、それをきちんとまとめ
れば良い線行くのではないかと思うのですが、いかがですか。

講 師 僕も国分寺崖線とか野川公園とかに時々行くのですが、歴史的に見た時にあ
そこのわんぱく夏祭りも含めて、それからあそこのICAの所、崖線の湧水も
含めて、それから景観も含めてものすごいやはり皆さんの影響というか活動と
いうか、そういうエネルギーが反映された川かなと思っていますね。水涸れの
問題なども多々あるにしても僕は継続して繋いでいくという活動は、やはりぜ
ひ全国の人たちに紹介して頂けると、まさにグランプリではないけれども韓国
まで招待が来るのではないかなというふうに思います。

座 長 はい、いま納得流量などという話も出ていますので、可能性はあるかなと思
うのですが。いかがですか、ちょっとお聞きしたいという方は。よろしいです
か。ではお忙しい中、本当に山道さんどうもありがとうございました。

4 議 題

(1) 分科会の活動状況報告及び意見交換

○座 長 では引き続き次の議題に移りたいと思います。分科会の活動報告と意見交換
という事で、2つの分科会、水環境と生きもの、それぞれに報告をお願いします。
まずは水環境の方からお願いします。

- 水環境分科会 -

都民委員 水環境分科会の〇〇でございます。お手元にあるレジメのこの3の1という
のをお出し頂ければと思います。前回、半年前の第3回全体会から今日までの
間の分科会の活動状況を報告させていただきます。水環境分科会というのはこのレ
ジメにございますように4回の定例会と2回の水路調査、1回の野川の通信簿
の活動をさせて頂きました。野川の通信簿につきましては後ほど〇〇委員の方
から説明を頂こうと思っています。定例会4回やったのはどんなことをやった
んだという事でございますが、うち最初の第9回は前期の3回と合わせて学習
会を継続しておりました。東京都の川合さんの方から野川上流の地下水調査の
結果を勉強致しました。これは実にうれしい話で上流部の水涸れ現状と原因、
また水源をどのように確保していくのかという調査検討をされておられていて、
湧水の復活と深層地下水の活用を既に検討されているという事でした。具体的
に申しますと武蔵野面、立川面の地質調査を実施されていてどのぐらい地下水
を汲んでも地盤沈下をしないのかというまで既に検討が進んでいるということ

です。ぜひ水涸れをストップさせて頂いて、私たちも水涸れがストップするのであれば協力できるものはぜひ協力させていただいて、水涸れストップをぜひ、数年前のような事が起きないようにして頂きたいと思っています。また同時に上流部だけに留まらずに中流部下流部も同じようなことをやっていただいて、ぜひ上から下まで納得水量といいますか、安定した川に早くして、みんなで楽しめる川にしていけたらなというように考えております。それから10回から12回までは学習会を終えまして、2つテーマを持ってやらせて頂きました。1つは今月の野川ということで、もう1つはプロジェクトを今後どのように進めていくかということをお話し合いました。今月の野川というのは各エリア、野川は結構長い川ですので、それぞれの地域の方にどんな事がその月の間に起きたのか、どんな問題があったのかという事を報告頂く、問題点を出していただくというようなことをさせていただきました。みんなが他のエリアでどんな事があったのかという情報を共有する事で、自分たちのエリアでもそれを活用して問題を解決できればそれに超した事はないわけですので、お互いに情報を共有しあうということになりました。非常に大きいことだったのですが、一つだけ難しい問題がありまして、皆さんそれぞれのエリアでここは俺の野川だという気持ちが非常に強い方達の集合体ですので自分のことを話したすと終わらないというか、ずっと話される傾向になりがちで時間がいくらあっても足りないという、あえて言えば難しい問題だったかなというように感じております。続いてプロジェクトの進め方ですが、前期からあるものもあれば今期テーマとして新しく出したものもございまして、用水路の再生ですとか雨水活用ですとか普及啓発といった大枠で括った中でプロジェクトをどうしていったらいいかというのを考えました。その中で前から進んでおります野川の通信簿ですとか、野川の日の問題ですとか、イベントカレンダーといったテーマで進んでいるプロジェクトもございまして、これからどうしていったらいいのか、どういう人たちとどういうところで議論していったらいいかということも途中で話題になっております。それで最初の第10回では用水路再生プロジェクトについてがテーマとなりまして、国分寺地区と小金井地区の水路調査をどのようにやっていこうか、将来それをどうやって活用して用水路の再生をやったらいいかという事をさせて頂いております。これに関しては11月20日と28日に国分寺市内、小金井市内を歩かせていただいて、まだそこにしっかりした形で砂川用水から続く水路が残っているということを見させていただいて、各自治体のご担当の方たちが案内して下さって、これは、用水路の再生というのは夢ではないかと、そこまできてそんな感じを持った水路跡歩きでした。用水路再生というのは日も近いのではないかと非常にすばらしいテーマであるというように感じた日々でした。それから同じ11回ではイベントカレンダーとか野川の

日の説明を頂きましたし、12回では用水路活用形の下水道、あるいは水源としての雨水活用等の説明を頂きました。それで最後になりますが、これは流連のイベントではございませんが、この最後の方にレジメが入っています、国分寺崖線の第2回の再生保全フォーラムがございます。昨年度世田谷区に続いて今年は国分寺市が主催してございまして、国分寺市長や小金井市長から湧水の大切さや雨水浸透枡のピーアールを自らしていただいて、これはもう即野川の水源に繋がるということで、すごく熱を入れたお話をいただきまして、これではまるで国分寺崖線フォーラムではなくて国分寺崖線プラス野川フォーラムだなという印象を持った次第ですし、やはり野川は湧水で出来上がっている川でございますので、本当に国分寺崖線を愛して守っておられる方達と一緒にあって用水路の修復ですとか湧水を復活させたり、あるいは雨水浸透枡をもっともっと入れるという共同作業をやっていくことによって、国分寺崖線も守れるようになるだろうし、野川もすっかりよい形で再生ができるのではないかというように感じた、私にとってはすごく充実した11月だったような気が致します。今の報告をもって私の話を終わらせていただきたいと思います。続いて申し訳ないのですが、〇〇さんの方からお願いしたいと思います。

都民委員 元水質分科会の〇〇と申します、よろしく申し上げます。私は流域連絡会の一番最初から活動させて頂いておりまして、実はいま水環境分科会となっておりますが、水質分科会と水量分科会が3期目で一緒になったんですね。私は水質分科会に1期の時からおりまして、野川通信簿というのはその時に出来た成果物ですね。この通信簿の主旨というのは先ほど山道先生が仰った、地域住民が一番地域の事は知っているというお話しがちょっとあったと思いますが、まさにそういう主旨でして、地域住民に川の環境を、一番下に鳥と水生生物、水質、植物とありますが、こういう状況といいますか、どういうものを見たとかあったとか、というものを地域住民がやはり出来たら定時定点で調査してそれをそれなりの、例えば大学ですとかそういう専門家がある程度分析した形で行政の施策に反映させるという、非常に大きな目的で作ったものなんです。この野川の通信簿というのは、このちびっ子版というのを実は作りまして学校でやってみようじゃないかという事でやり出して、非常に評判が良くて、ここにあります南小学校で毎年やっているんです、これは毎年定期的にやっております。非常に評判が良くて実施している方も何か褒められるのでその気になってついちゃっているという、要するにイベントとしてついちゃっているんですね。たった一日のイベントです。ですからイベントそのものとしては学校側も専門家がいないのでそういう事をさせて頂くという事は非常にありがたいということで喜んでいきますし、生徒もその都度非常に喜んでいて。ただ我々としてはこちらにありますように約40名近いスタッフの方がやはりへばりつかざるを得な

いですね、いろんな意味で。その辺がかなり負担になってるということは事実
でして、他の学校にもこれを広めたいななどいう事もあるのですが、なかなか
これは難しいですね、現実問題は。それからもう一つは、イベントとして終わ
らせてしまうという事について、最初から絡んでいる私としては非常にこう、
何かちょっとおかしいねと、本来の通信簿というものからいうとイベントとし
て終わらせちゃうのはちょっと不満だなということは正直あります。ですから
これは少しずつそういうものから脱皮させていきたいなというのがいま私自身
もありますし関係者の方の意識ではないかなと思います。以上です。

座 長 はい、ありがとうございます。そうしましたら、水環境分科会の活動報告に
ついて質問、補足等ありますでしょうか。ちょっと私も水環境の方は出ていま
すのでこの水路調査ですね、実は成果物として提案書のような形のをまと
めたいという話でいま進めていますね、それから〇〇さんが今日お休みな
ので、入間川については読本をつくらうという事です。2期の時には3つ、並
列的に水路のまとめをやったのですが、今度はちょっとずつ違う、小金井は湧
水を国分寺は玉川上水の分水、入間川は歴史読本、そんな感じでまとめら
れるかなという状況ですね。よろしいですか、補足は他には。それから今日
お休みの方が多いたようですが、野川の日のお話もあるんですね。これは
全体にも絡むのですが。〇〇さん。野川の日には水環境だけではなく、こ
れは後で全体にしましょうかね。はい、よろしいですか。なければ生きもの
の方に移りたいと思います。ではお願いします。

- 生きもの分科会 -

団体委員 生きもの分科会の〇〇でございます。第3期の活動もそろそろ
終わりに近づきましたので3期をまとめて生きもの分科会の活動について
説明させていただきます。資料としては3の2というのと野川ルールとい
うのをお使い下さい。ちょっとパワーポはよろしいでしょうか。生きもの
分科会の3期ですが、全部で12回の分科会を開催致しました。当初は活
動テーマを選ぶという事で話し合いを進めまして、その後生きものに関
して、野川に関しての勉強会、生きもの観察会などを開催しました。そ
れから第1期につくりました野川公園内のホタル川とヒョウタン川、こ
ちらで自然観察会、生きもの観察会に合わせて補修作業も行いました、
それから3期の活動の中で一番柱になったというか、重点的に行ったもの
が野川ルールでございます。2期から引き続いて野川ルールを検討して
参りましたが、3期になりましてようやく出版というか野川ルールを完
成させる事が出来ました。当初は冊子の形態で2,000部、印刷をしてそ
れで説明会を開いたりアンケートを取ったりというようなことを行いまし
て、普及活動に努めました。はい、お願いします。生きもの観察会はこの
ような形でや

ったわけですが、労力の問題もありまして1年に2回と少ないのですが夏と冬に一般の市民の方に参加していただいて観察会を行いました。このようにたくさんの方に集まっていただきまして、ホタル川などの補修作業も汗を流して一緒になってやって頂いて、その後川や湧き水に入って生きものをとるような活動でございます。最後の4回目は来年の1月を予定しております。はい、お願いします。こちらはホタル川ヒョウタン川の補修の様子ですが、市民参加で作ったこういう川の中に川があるという、河川敷の中に捨てられていた湧き水を活用して小川をつくる、幸いな事に2期目にこれは完成して今モニタリングというか、観察会を兼ねて調査をしておりますが、当初願っていたホトケドジョウが野川から上ってきてどうも子どもを産んでいるようです。他にメダカとかドジョウ、あるいは冷たい水きれいな水を好むニンギョウトビケラとか、そういう生きものがこの中に多数見られます。データもそろそろ貯まってききましたので研究部会とも調整しながらこういうデータをどのように活用していくか、一つの課題かなと思います。はい、お願いします。こちらが野川ルールです。何度も報告しておりますので皆さんも内容は充分ご存じだと思います。それからこれは冊子版の方なんですけど、今日お手元に簡易版、普及版というのがお手元にあるかと思います。こちらの方は一万部の印刷をして、よりこの野川ルールを普及させたいというように考えております。世田谷と小金井で野川ルールを考えようという説明会というか話し合いの会を持ちました。その中で様々な意見が出ました、なかにはこんなものを作って何の役に立つんだという大変手厳しいご意見もございましたが、大半の方は大変よろしいと、ぜひこういうのを広めたいし自分たちも学校などに持って行って、教材というよりも子供たちが野川を好きになってもらう一つの切っ掛けとしてこの野川ルールを使っていきたいという大変お褒めの言葉も多数頂きました。第3期の方達にはぜひこの野川ルールを改良するとともにより広く広めて頂ければというように考えております。はい。最後に今後の課題なんですけど、ちょっと私的な私の思いも入っておりますのでまだ分科会の方たちにすべてご賛同頂いたわけではございませんので、ちょっとおことわりをしておきます。今後どのような活動をしていく必要があるかという事を少しまとめてみました。生きもの観察会は第1期からずっと継続して行われておりますし調査の意味合いも兼ねております、従ってこの観察会については最低でも年2回ぐらい、夏冬ぐらいは続けていく必要があるのではないかと思います。それからホタル川などのビオトープですがこちら作りっぱなしというわけにはいきません。これからも維持管理を指導していく必要がある、場合によってはもうちょっとメンテナンスが楽なように改良する必要もあろうかと思っております。ソダ木を切ってしがらを作り直すという作業はかなりしんどいものですから、だんだん皆さん老齢化してくると大変

なのではないかと、もうちょっと簡単に管理できるような改良も必要なのかなというように思います。それから先ほど言いました野川ルールの普及改良。こちらにもいろいろな意見を頂いていますので、項目を増やす、あるいは表現を変えていくというような事も今後話し合っていく必要があるかと思えます。そういった継続的な作業以外に新たなものとしてはホタル川のような湧き水を活用したビオトープづくり、こういったところを改めてよい場所を探してもっともっと野川が生きものにとって良い川になるように汗を流せないかということと先月の27日でしたか、新たなホタル川の場所を探そうという事で、生きもの観察のリーダー育成も兼ねまして現地の踏査ならびに調査をいたしました。生きものに関するスライドなどを見ながら勉強をしたのですが、候補としては今のところ野川公園の中にある湧水、鏡池あたりの水を使って何とかならないかなというような話し合いがなされました。それから生きものばかりというわけにもいきませんので水環境分科会などと連携していく必要が当然あるかと思えます。勿論この流域連絡会の中だけではなくて、他にもたとえば自然再生事業とかですね、各地域下流から上流までいろいろな活動があります、そういった活動とこの分科会がどのような連携をしていったらいいのか、この辺も今後の課題ではないかなと、それこそ連携をして横に広げて活動が実のあるものにしていきたいというような私の私的な思いですがございます。それから同時に生き物に関する情報はいろいろあります。まだこれがちょっと共有が足りないのかな、さまざまな情報があるのですが地域あるいは個人あるいは団体の中で眠ってしまっていてそれがなかなか共有されない、それが貯められて整理が出来ていない。整理できないから川づくりに活かされない、そういうところがあるのではないかなと。これは分科会、ほかの分科会あるいは別の団体などとの連携も含めて考えて、こういうような川に関する情報、今なっとく部会の方で情報地図の事を考えていますが、生きもの分科会の中でもやはりそういうものを、なっとく部会の動きを見ながらこれから進めていく必要があるのかなと。こういうようなことをできれば第4期の委員の方たちにご提案して次の活動に結びつけていただければというように、私的な意見で申し訳ございませんが考えています。以上です。

座長 はい、ありがとうございます。生きもの分科会は野川ルール、大変な作業でしたが完成させたという事で、3期の本当に目玉の成果物が出来たという事だと思います。その後の課題等もいろいろあるようですが、可能性がいろいろ残っているという事で、ホタル川は湧水環境を作り出した、創出したという意味では私はとても素晴らしいと思っています。他に補足とか質問等々ありましたらお願いします。よろしいですか、野川ルールのその後について何かちょっと情報のある方とかいらっしゃいませんか。よろしいですか。

(2) 部会の活動状況報告及び意見交換

○座 長 そうしましたら報告関係をどんどんいきましょうか。次は野川なっとく部会ですね、河川情報図も含めた内容になるんですかね、これは事務局の方からお願いします。

河川部 野川なっとく部会の事務局をやっています、河川部計画課榎本と申します、私の方から報告させていただきます。4の1という資料に基づいて説明させていただきます。野川なっとく部会ですが、平成18年11月の第2回全体会以降、まさに第3期の流域連絡会で立ち上げた会でございます。平成18年3月に河川整備計画を策定しましてその中の施策でありました「みんなで決める納得流量」それから「市民とつくる河川情報図」について話し合う事を目的として立ち上げております。これまで部会は5回開催しております。それから流量調査ということで現地で流量調査を4回実施しております。前回第3回の全体会からは部会を1回、現地流量調査を2回実施しております。部会については平成19年10月19日に第5回を行いました、主に流量調査の報告と納得流量についての検討を行いました。それから現地流量調査については第3回第4回という事で平成19年8月26日、10月28日に実施をしております。これまで4回実施しております。現地流量調査については4の1の後ろ側に結果を載せています。10月のデータは間に合わなかったのですが、第1回の昨年12月から今年の8月まで3回の結果を載せています。流量調査については元々、納得流量を設定するのにあたりまして、これだけ流れているとどの位の流量があるのかという感覚をつかむために開始しております。その中で第3回では測定精度を少しでも上げるために北南建で実施している流量調査と同時に行ってみるといった事をしながら場所や方法を測定する委員が工夫して行っており、その結果昨年12月に比べて段々測定結果のバラツキが少なくなっていくという事で、今後も流量調査については引き続き実施をしていきたいと考えております。今後もまたデータ、なるべく精度がよくなるようなものを委員の方と考えていきたいと考えています。実際の納得流量と河川情報図についてですが、まず納得流量についてはこれまで国で出してます正常流量の手引きというのがあるのですが、それで正常流量を出していったものと実際の流量を比べてみたり、それから野川らしさとは何かというのを調べたり、今後検討していきたいテーマなどを話し合ったりしてきています。まだ具体的な検討を実際に行っているという事ではなく、いろいろ難しい部分もありまして、今後いろいろな課題がございます。今後は納得流量ということ、皆さんで納得していく流量をどう設定していくかという事を考えるのですが、野川とは何か、野川らしさとは何かという事を話し合っていく中で納得流量というのが出てくるのかな

という事で、もう一つやっている河川情報図と一体として考えたていく必要があるのかなと考えています。また今後いろいろなテーマを設定して納得流量を検討していきたいと考えています。検討していく中で、納得流量と非常に重要な事をやろうとしているのですが、課題として部会に参加できる人数が非常に少ないという事で今後は出来たら水環境部会や生きもの分科会で作業を実際にやって頂いて、まとめを部会でやるようなそういう事も考えていきたいという事で、出来たら皆さんにご意見を頂きたいなというところがございます。それから河川情報図についてですが、4の1の資料の2枚目でございます。イメージをちょっと載せさせて頂いています。現在河川情報図については2つのモデル地域を設けまして委員の皆さまからデータを収集して実施しております、上にある絵が皆様からデータを集めたものです。今後はこの集めたデータを下の図のようにデータベース化していきたいと考えております。今後の作業の進め方なんですけど、いま2つのモデルでやっているのですが、全川について情報を集めていこうと考えております。今後部会では情報図の目的とかどんな情報が必要かという事を整理していきたいと考えております。それから情報を集めるということではメーリングリスト等で情報を集めたり現地調査を実施していきたいと考えております。それとともに行政で行う調査、河川水辺の国勢調査とか北南建の水量調査、それから流域連絡会で行う調査、生きもの観察会、水量調査の結果なども盛り込んでいく必要があると、そういう意味では納得流量でも言えるのですが、生きもの分科会、水環境分科会の方には情報収集についてはお手伝いをしていただきたいと考えております。納得部会の今後の課題として、まとめとしましては、やはり今後各分科会との連携をどううまくやっていくか、いろいろ作業も一緒にやっていくかという事が課題なのかなというように考えております。以上です。

座長 はい、ありがとうございます。続きまして研究部会お願いします。

事務局 それでは研究部会の説明をさせていただきます。資料の4の2をご覧ください。活動状況としましては、6月19日に開催した第3回の全体会の時に研究機関への呼びかけ文を提案して、概ねの了解を頂きました。その後、小倉前座長やまとめ役の皆さんと話し合いをしました。10月に入りまして、先ず座長の所属する法政大学大学院エコ地域デザイン研究所宛と前座長農工大名誉教授宛に連携の呼び掛け文を送付しております。また11月から建設局の野川流連のホームページで掲載して広く目に留まるようにしているという状況にあります。また一方で、連携がうまく整った時に直ぐ対応できるように、10月16日の生きもの分科会と10月26日の水環境分科会の時に委員の皆さまに参加希望の確認もいたしました。現在の構成員としましては、部会長に小倉先生就任の了解が得られております。部員は、設置の時から構成員であります座長、

副座長、まとめ役の皆様と、今のところ希望されている委員がお二人という状況にあります。私の説明不足もかなりあったかなと思います。期限がありませんので研究部会に参加ご希望の方はご連絡をいただければと思っております。今後の予定としましては、まとめ役の皆様とも相談して、もう少し具体的なテーマを決めて研究機関に打診をしていく必要があるのではないかというご意見があり、下の3つの案を考えました。順次、こういう席で委員の皆様から提案をいただき、具体的なテーマを研究機関の皆さんに示して、対応してもらえるのかどうか個別の相談も必要かなと思っております。なお、配付資料に載せる事が出来ませんでした。昨日、座長が所属する法政大学のエコデザイン研究所さんから連携の希望をしますという回答をいただきました。野川・新河岸川水系と玉川上水の水環境に関する研究の中で流連と連携をしていきたいというご希望です。今後、もう少し具体的な調整が必要と思っております。以上が前回の全体会からの流れと今後の予定につきましてご報告です。

座長 はい、ありがとうございます。取りあえず希望が殺到して困るというような状況にはなっていないようですね。いずれそうなるかもしれませんが。いまちょっとPR不足ということもあるので、逆にそれぞれ委員の方々がこういう研究をしてほしいというものをお知り合いの研究者とかそういうところに打診してみると、そんな作業をしてもいいのではないかなというように思っています。そうしましたら、全体討議があるのですが、その前に第3期の任期と活動報告会の開催ということがちょっと今日の大きなテーマとしてありますので、今日はその後をどうするかということを決めておかなければいけないですね。それでまとめ役会を事前に開きまして、やはりこの3期の中にもう一度全体会をやらないとまずいのではないかという方向でいま詰めていくところです。

(3) 第3期の任期と活動報告会について

○座長 そんなところで報告会のほかにその準備としての全体会ということも含めてどうするかと、それから3期の役員の任期が切れますのでその後のことも含めてどうするか、事務局の方で提案があるということです。お願いします。

事務局 はい。それでは資料5をご覧くださいと思います。第3期の任期と活動報告会という事で、まず1点目ですが、第3期の任期をいつまでにするかということです。基本的に第3期の委員の公募は18年3月に行われておりますが、1回目の全体会は5月17日に開催されております。設置要綱の2年間というのをどのようにとるかという事で、事務局としても迷っているところです。一応全体会が出発点という事で概ね2年というようにしたらどうだろうと考えて、平成20年5月に活動報告会を開催し、そこの下の方にまた出てきますが、第3期の任期は5月までという事でご提案したいと思います。審議をして頂けれ

ばと考えております。ちなみに第1期の時は、12年8月に設置されまして、だいたい2年10カ月ぐらい。第2期につきましては15年11月の第1回の全体会から約2年3カ月ぐらいの活動で、概ね2年ちょっとというのが今までの状況です。第3期につきましてはきちんと2年間ということになるかなとは思いますが、一応そんな事で任期に対する提案です。2点目は活動報告会の開催という事で第1期の時は「夢を語ろう明日の野川」という事でこの「たづくり」の会場をお借りして開催しております。第2期の終わりの活動報告会につきましては「元気です野川みんなで川づくり」というタイトルで新宿の都庁舎の都民ホールと都政ギャラリーを借りて開催しております。では第3期の活動報告はどんな形であるのがよいのだろうかという事で、まとめ役の皆さんと話をしました。まだ確定ではありませんが来年5月17日の土曜日に、場所は野川沿いの公共施設。小中学校など、どこか良いところがあったらというような事で相談し、第1候補に調布市立調和小学校でどうだろうかという案が出ております。企画としましては上流あるいは下流の方から散策をしたりゴミ拾いをしたり自然観察会などをしながら、会場に集まってそれから活動報告会を行う事にしたらどうだろうかというような提案があります。併せて、第2期と同様に所属団体の活動状況のパネル展示をしたらどうか。新規の委員にこんな活動をしているのだというのが解ってもらえるように早めに委員を決めて、この活動報告会に参加してもらったらどうだろう、というようなことも提案されております。3点目は、活動報告会に向けての準備というような事もありまして、来年3月10日にこの「たづくり」の予約が出来ましたので、第3期最終の全体会を開催したいという事です。今後のスケジュール的な事も含めまして事務局からの提案でございます。以上です。

座長 はい、ありがとうございます。そうしましたら今の具体的な活動報告会をどのようにするかという事をまず議論しなければいけないのですが、ここまでのところ、いろいろな課題が出てきていますのでそういうものについてもやはり議論をしたい部分が残っていると思います。そういうことも含めてになりますが、野川ルールをどう広めていくとか通信簿にしてもどう脱イベント化していくとか、研究部会にしてもどう広めていくか、そういう話がありました。もう一つ具体的な提案として議論して欲しいという話が、先ほどのなっとく部会ですね、こちら大きいと思いますが、河川整備計画の話しという事で今までは切り離して東京都の事務局中心で都庁で開いてきたのですが、ちょっとそのやり方も少し見直したほうが良いかもしれないということですね、そういう点もあります。そうしましたら、最初にこの活動報告会ですね、具体的な話としてどうするかという事で少し議論したいと思いますが。いま事務局から提案がありました、何かご意見いかがでしょうか。

(4) 全体討議

市民委員 この調布市立調和小学校というのは本当に野川の直ぐ脇に建っている小学校でして、しかも一番新しく出来た学校なものですから市民開放型の学校になっておりますので、体育館の使用については事務局を通して調整をしていただいておりますが、場所的にもとても良いのではないかなというのがあります。それから私は自然学習ボランティアというのを地域でやっておりまして、この調和小学校は4年生が毎年野川をテーマにして月1回のペースで子供たちが野川に行って水生生物とか植物とか鳥とか、それぞれ子ども達がテーマを決めて野川についての活動をしていて、3月、年度末にはそれをそれぞれがまとめて3年生と保護者に向けて子供たちが発表をするんです。その発表がとても良くて、模造紙にまとめたりあるいはプロジェクターを使ってやったりとか、クイズ形式にしたりとか、とてもすばらしいまとめをしているので、もしもうまく時間の都合がつけばその子ども達にこの報告会のところで発表してもらえたらよいのではないかなということもあって、私の方からこの調和小学校はどうでしょうかと提案させて頂きました。

座長 はい、ありがとうございます。会場についてはいかがですか、なかなか良い案だと思うのですが。〇〇さん、何かありますか。そうですね、それから場所的にも上流下流から歩きながら集まってくるという意味でもなかなか良い場所だと思うんですね。それから南小とはいろいろなつながりが出来ていますが、そういうように野川に面した小学校とこれから少しずついろいろな関係をつくっていく、そういう意味でもまた意義があるでしょうね、ぜひここで、会場に出来れば面白い活動報告会になると思いますが。ここでやった報告会もそれなりに面白かったのですが、都庁はいろいろ制約もありましたがそういうやり方もやっている、今度はちょっとまた違う方法でどうだろうということですね。それから実はこの話のときにこの全体発表会、活動報告会のその日を野川の日にしたらどうかというような提案があって、〇〇さんいかがでしょう、ゴミ拾いの話から始まった、野川の日とゴミ拾いという話からいろいろ発展して来ているのですがいかがでしょう。

団体委員 実はマイクふられなければいいなとさっきから思っただけなのですが。私は第2回目の全体会ですかね、もう1年ぐらい前になりますが野川の日提案があって、その中身としては清掃活動を中心に流域の市民の皆さんも一緒に家族ぐるみで参加できるようにというような形でご提案頂いて、実施の内容につきましては水環境分科会において少し検討重ねて詰めて下さいよと、こういうようなお話しで来たかなと思うのですが。私は小金井の中でクリーン野川作戦という清掃活動をやっている経験があるものですから、ちょっと私も少し検討を

重ねてきたのですが、上流から下流まで野川を1本ということで、例えば一斉の清掃日を設定しようという事になりますとなかなか実現的には難しい事がたくさんございまして、集めたゴミ、誰がそれを回収してどのように例えば焼却施設に運ぶのか、従来はそれぞれ行政単位で清掃の行政窓口をお願いして、例えば回収車ですか、ゴミを回収するような車を出してもらったりまたゴミを運搬していただいたりという事もありまして、そういった行政をまたがった形での支援協力を頂くという事、かなりこれもハードルが高いなとか、それから一斉の清掃日と設定してしまいますと、それぞれ現在も各団体の皆さんが独自の日にちですとか独自のやり方でいろいろやっている、なかなか調整が難しいのではないかと、いろいろな問題点が出てきたのですがそれでもせっかくだからこの野川の日というのを清掃活動を中心として何か市民の皆さんも気軽に参加できるようなやり方を検討しようよということで、実際に今でも考えているところではあります。私どもの経験から言いますと、どうしてもゴミの清掃活動をやるということになってしまうと考えちゃうんですね、野川の水の中に入るぞと、膝の上までの長靴を用意したり、それから汚れて野川の中でひっくり返ってもいいようにもう本当に重装備になりまして。それから一つのところでもってゴミが見えるとやはりほっておけないんですよ、もうヨシとかアシをかき分けながら中に入り込んでさう、そうするとまた隣がまた目についてしまう、一つのところでもう10分20分、そこだけとってもゴミ袋が3袋も4袋も出ちゃうと、そういうような事をやりますととても家族ぐるみですとかあるはずと移動しながら100メートル200メートル自分でながしながら掃除をするという事にならなくて、もう本当に一点に集中してそこでもっていうならば拘ってしまうというような事もありまして、なかなかもっと気軽に、それこそ少しぐらいのゴミだったら見過ごそうよというようなかたちでながすというのは私の経験からいうと性格ですね、ちょっとなかなか出来ないんですよ、だからやはり野川の日というのは地域の皆さんと一緒に、もっと気軽という事なんでね。何かこう清掃活動を通じてもう少し気軽に参加できるような良い知恵がないかなというのも実はいまいろいろ考えてはいるところです。ただ今日は座長からもお話し頂きましたように、野川の日イコール清掃というように拘らなくて、もう少し気軽に野川の現状をみんなで見るように機会を提供し、またみんなと一緒に交流できるようなそういった野川の日でもいいのではないのかというような事も分科会の方でもご意見としては結構あるんですよ。だからもう少し野川の日の内容について、清掃を中心にしながらも清掃活動だけに拘ることなく、もう少し皆さんの、せっかく今日全体会という事でいい機会でございますので、いろいろとご意見とかアイデアも頂きながらもう少し話が進んでいけたらいいなと私は思っています。話が長くなりまして

ごめんなさい。

座長 ありがとうございます。せっくなので野川の日に絡む話でもありますので、ご意見を伺いたいのですがいかがでしょう。何かアイデアがありますか。歩くとなると長靴を履いてというのはちょっとという事になると、ゴミを拾うにしても拾う場所が歩く場所で目に付く物という程度になると思うんですよね。そうすると逆に言うと大げさに考えないで、ゴミ袋も本当に簡単に1人で持てる程度の小さいゴミ袋ぐらいを渡して、その袋にいっぱいになったらもうそれ以上は拾えないねというぐらいのものを持ち寄ると、まあ別に拾わなくても良いというぐらいで、ついでに落ちているゴミを拾いたいと思うものを拾っていくぐらいの、そんなでもいいのかなという気はするんですけどね。どうでしょう、他に、これ水環境の中では結構議論したのですが生きもののほうでは。はい、〇〇さん。

都民委員 すいません。この話は私も言い出しっぺの1人で、もしも5月17日にそういう形をやるというのであれば、5月17日に世田谷の一番はずれの方で清掃活動を、いまからだったらスケジュールに乗せられます。これからは〇〇さんにもご相談ごとですが、前もってどれだけ集まるか解りませんが、歩いてこられた世田谷区内のゴミはトラストのあそこへ置いていって下さいというかたちで、他の行政さんに世田谷区内のゴミはお世話をかけないでそこで引き取りますというような形もひとつかなと。まだ本当に私案で自分が考えているだけですが、ご相談してもやらなければならないとは思いますが、そんな形で上からも下からも区界とか市境ぐらいのグループが引き受けて下さればあるいはこういう事ができるのかなという、そんな気はします。私案ですからいっぺんやってみるのもひとつかな、押しつけではなくて出来る事から少しずつやってみるというのを。皆さんができる範囲で提案しあったらいかがですかね。すいません、とりとめもない話で。

座長 はい、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。はい、どうぞ。

団体委員 野川の日に関してですが、今度の報告会を開くから野川の日というのは正直ピンとこないのですが、ただ野川の日という日を決めてそれを胸に刻んで野川を良くしていこうというそういう日はすごく大事だと思いますね。ですからせっかくその報告会の日、もしも野川の日を設定するのであれば、その日に何らかの動きになるような事がないとうまくないような気がします。例えばお祭りみたいなものを提言するか、もしくはその日を野川の日にするのではなくて野川の歴史文化を含めてこの日がふさわしいという日を設定してその日を野川の日に制定するという、次の活動報告会の時に最終的に決定する、出来ればそれ以前、全体会までに生きもの分科会等でそれを整理してふさわしいというものを言ってみたらどうかなと。もしくは野川整備みたいなことを将来の子

ども達にどう託すか、そういった事がないとやはり、たまたまこの地域に育ったから野川の日という、対外的にもちょっと厳しいかなという気がします。

座長 はい、他にはいかがでしょう。どうぞ。

市民委員 生きもの分科会の仲間ですが、皆さんアイデアがいつも素晴らしいのですが、それでまあ参考になるかどうか解りませんが、都知事が皆さんも覚えているかな、ペットボトルを持ってね、コクエン、記者をいっぱい集めてね、ふりまいたんだね、そうしたら記者さんや知事に何するんだとビックリして、それで皆さんそれこそ鮮明に覚えていると思うんだけど、大気汚染問題、東京都がリーダーシップをとって和解になったでしょ。大気汚染とこの野川の環境は大いに関係があるんだけど、この何とかこれね、野川のこういうホトケドジョウなど出てきたんだから、そういうところ素晴らしいんだからさ、例えば何か強力なリーダーシップというか、そういう、座長さんが今度は東京都知事選に出るとか、何かそういう、大気汚染がとてもしゃないけれども解決できないと思ったら、ああいった和解という方法でさ、だから野川だってそういう環境という引き方、そういう大きな考えを皆さんに持ってもらいたい、野川の日もそれはいいんだけど何かそういう、強力なね、何かが座長さんあたりにもっとやってもらいたいね。

座長 解りました。野川の日などという小さい事をいわずに。

市民委員 もうちょっと大きな事を。野川の日なんて、考え方は小さいね。

座長 そうしましたら、この野川の日は実は3期が始まって最初から持ち越しているんですね、これはやはり何としても決めたいですね。取りあえず決め事としていま幾つか意見が出ましたので、今まで議論して出てきた代表的な意見を整理して、少し次回までにもんで、これは両部会でもって少しきちんと決を採るといいますか決めようという事にして、それで次回の全体会で野川の日を決めると、そんな方向でいきましょうかね。そうしないと何か、議論も良いけれどもいつまでも決まらないのではちょっと寂しいので。いかがでしょう、そんな事で。では全体会については概ね事務局でいま用意されている方向で準備して大丈夫という事でよろしいですかね。他に。次回全体会を3月に開くと、それから報告会を5月に開く、そういう流れで準備するという事でよろしいですか。はい。ではそうしましたらもう一つ大事な話が、河川整備計画と野川の流域連絡会との関係の整理という事も含めて、実はかなり大事な作業をなっとく部会でやってきて、ちょっと勿体ないなという感じがあるんですね。ですから私などもぜひ水環境分科会とか生きもの分科会と一緒に作業をする方が効率的だしいいのではないかなと思うのですが、それに関してちょっとご意見を伺いたいのですが、いかがでしょう。生きものの方は特に環境情報図ですね、そういうものに、いろいろな生きものを載せようという時にはやはりそこで何

人か集まっただけではなかなか出るものも出ないですね。生きものの方で、○
○さんいかがですか。

団体委員 先ほど他の所との連携というお話しがあったのですが、やはり1つの所に情報があるというのではなくて色々な所に発信をしていって、それがまた良い形で共有できることが重要だと思います。

座長 はい、ありがとうございます。他にはいかがですか。今日は割と皆さん静かですが。具体的な提案で出来れば部会を、なっとく部会を河川情報図も含めて少し野川の流連の水環境と生きものの部会と連携しながらやろうという事ですが、いかがでしょうか。ちょっと違うぞと思う方がいたらご発言ください。はい、どうぞ。

市民委員 私もその意見に賛成でして、なっとく部会というのは私も入りたかったのですがちょっと入れなかったのも、いま何うとだいたいこれまでやってこられた事などを、私は水環境分科会にいるのですが、水環境分科会の方にここまで出来たけれどもここら辺の部分について皆さんから意見をくださいというような情報提供をして頂いて、またそれを先ほど何とおっしゃってましたっけ、それをまたなっとく部会に戻してまとめていくというのは、本当に良いのではないかな。私たちも納得、本当に野川のなっとく部会をぜひ今年度に、この3期に立ち上げたいという事で私もしたのですが、野川流連にとっても非常に重要なテーマであるので、水環境分科会それと生きもの分科会の活動をふまえて、それを意見に集約していったらいいのではないかなと思うので、それはとても良い傾向ではないかなと思います。

座長 はい、ありがとうございます。確かに元々流連から出てきた提案ですからね。それで形としては河川整備計画という、作業としては都の仕事になってくるので逆に手分けとして基本的なものをきちんと整えて頂いて、それを持ち込んでもらってみんなで議論をするという、そういう形にすればかなり効率的な議論が出来るのではないかなという、そんな話もありましたので。いかがでしょうか、よろしいですか。悪くない提案だと思いますので、そうしましたら今日はこれ一つ決まりという事で、今後そのような形で連携を深めながら進めるという事でよろしくお願いします。それ以外にちょっと全体討論の中でぜひ議論をしておかなければいけない事というのがあるかと思いますが。これは是非ちょっとここでという方がいらっしたら、どうぞお願いします。大丈夫ですかね。確かに大体流連全体の活動が割と落ち着いてきているというね、まあやる事もやっているという事なので、部会の中の議論も充分されていると思うんですね。

5 報告事項

(1) 野川自然再生に関する状況報告

○座 長 そうしましたら、事務局報告の方も今回は実はいろいろありますので、そちらに移って、そちらの方でも議論する時間が必要だと思しますので、事務局の報告に移りたいと思います。では最初に野川自然再生に関する状況報告という事でお願ひします。

事務局 では事務局の方で野川の自然再生の状況の報告をさせていただきます。資料6を見て頂きたいのですが、19年度の整備予定個所について、武蔵公園なんですけど、第一調節池内の溜池水路と野川からの導水、第二調節池の草地区の調査について現在検討を進めています。この中で自然再生協議会の第14回を10月9日に行いました。その席で19年度の予定個所について事務局提案させていただきました。第15回を12月18日に予定していますが、そこで再度ご検討を頂くということで準備を進めているところです。自然再生協議会としては施設見学という事で、来年の1月か2月の予定で神奈川県和泉川等を見学する計画をしています。それから野川自然の会の活動についてですが、それについては春田植えが終わりまして9月16日に稲刈りを行っています。参加人員44名、それから10月8日に脱穀、参加人員が35名です。最後に収穫祭を11月18日に行いまして81名の参加。現在田んぼの方の関係は終わっております。今現在、自然の会としては総会、モニタリング調査の方を実施している段階です。最後にその他という事で報告ですが、11月14日15日に環境省が行いました自然再生協議会情報連絡会議東日本の会議が仙台市でありまして、そこに野川自然の会の代表と北南建事務所の高崎係長の2名が参加して情報交換を行っています。以上で報告を終わらせていただきます。

座 長 はい、ありがとうございます。自然再生事業、直接流連とは関係がありませんが、かなりメンバーがダブっていますし関わりが内容的にもあるということなんですけど。今日は〇〇さんは欠席だと思いますが、関連する話があるとする水源の確保という事で、湧水の水路を引いてくるようなかたちですね、あると思いますが、こういうものが流連の活動とどういう形でかかわってくるのだろうかというように思いますが、それでどなたか分かる方いらっしゃいますか。〇〇さんあたりがいいのかな。

団体委員 水源の確保という事とか自然再生の問題なんですけど、実際に工事が終わった時点で、水路、池、田んぼと出来たわけですね。それで今のところ野川からの導水はありませんのでドジョウ池の湧き水、平均的には1秒に50ccぐらい流れている、この水をドジョウ池から出ていく水路と田んぼに引き込む水路、ほぼ50%ずつに分けて利用しているんです。その50%の水で田んぼと湿地、水路を構想したのですが残念ながら途中で水が涸れてしまった、それでやむなく野川に排水しているドジョウ池からの水路の水を完全に堰き止めて、池の方

に逆流をさせてようやく池と田んぼ両方に水をもたらしていると、こういう状況なんです。それで将来的に野川からの導水が来たとしても、野川が濁水する場合には同じことになります。とすると上流側につくる溜池に仮に水が貯まったとしても当然何も使わなければオーバーフローするだけです。野川の水が止まればあっという間に途中の水路は涸れることになります。それを多少でも引き延ばそうとすれば溜池から田んぼの方に何らかの道具を使って溜池の水をくみ出してやろうと。ただその場合、溜池の容量から考えて、どんなに細々と流してやってもいいところ2週間、ところが濁水が多い場合はそれこそ3カ月は濁水しますよね、そうするとため池の水も涸れるし当然下流の水も涸れる、かろうじて残ったのはドジョウ池からのわき水を使った水路と池と田んぼ、そういう状況になってしまう。これは将来的なことを考えると、緊急避難というにはあまりにも地理的に長いような気がします、場合によっては敷地内あるいは敷地外に持って行ってそこからの導水をせざるをえないのか、もしくは考えかたをコロッと変えて、涸れたらいいじゃないかという考えもあります。昔も田んぼがあった時代も生態系も冬になれば田んぼに水はありませんでした、野川だけですよね、そういう事も一つの自然かもしれない。その辺を整理して考えていかないとその水の問題、それから自然再生という考えかた、その辺でちょっと議論がぎくしゃくしてしまうかな、もう一度きっちり整理する必要があるかと思えます。

座長 はい、ありがとうございます。その通りですね、やはりそうすると玉川上水から導水しないとイケませんね。

団体委員 そのとおりなんです。

(2) 国分寺崖線保全フォーラムに関する報告

座長 はい、そうしましたら次に国分寺崖線フォーラムに関する報告をお願いします。

行政委員 国分寺崖線、保全再生フォーラムについて報告させていただきます。私は国分寺市緑と水の公園課の松本と申します。昨年の世田谷区で行われた第1回国分寺崖線フォーラムに続きまして第2回国分寺崖線保全再生フォーラムを国分寺市において開催致しました。開催日は11月10日土曜日、東京経済大学において行われました。当日は午前の部のウォークラリーと午後の部の基調講話、対談、活動報告及びパネルディスカッションの二部構成で実施しました。午前の部のウォークラリーは国分寺崖線沿いの水の流れと紅葉を楽しみつつ約60名の参加がありました。午後の部は東京経済大学で約250名の参加者を集め東京大学教授の藤森照信先生の国分寺崖線の庭園、別荘建築について基調講話と藤森先生、国分寺市長の対談、小金井市長および国立市長のお話がありまし

た。その後、世田谷区、小金井及び国分寺市の市民活動団体による活動報告さらに早稲田大学教授の卯月盛夫先生コーディネーターによるパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは活動経験がある研究者のご意見、午前のアンケート結果、会場からの意見を全面的にまとめる事になり、国分寺崖線の保全再生を効率的な視点から取り組むために、自治体、市民活動団体等、それぞれの多角的な連携が必要と認識されました。参加者のアンケートでは緑と水を保全再生する値打ちが開拓されていた、国分寺崖線への関わり方が極めて大変な事が解った、関連する行政市民関係機関の連携が今こそ重要だとの意見が寄せられ、今後も様々な連携によって国分寺崖線の緑と水、美しい風景の保全と再生への取り組みが継続されていくことを期待し、閉会としました。以上です。

座長 はい、ありがとうございます。私もこれに参加しましたが、本当にとっても素晴らしい内容だったと思います。またちょっと感じたのは、意外と崖線をやっている方達、緑の方と野川の川の方をやっている方たちが、重なっていない部分もあるというのがちょっと解りまして、これから先は少し野川の流域連絡会とこの崖線フォーラムの関係自治体、いろいろな連携をしていこうという動きを、もう少ししていったらいいのではないかなというそんな気がしました。それでとても良かったのですが、ちょっともったいなかったのがいろいろポスターなども出ていたのですが、その辺が全然触れられなかったという事がありまして、今その続きの企画なども動いているという事ですね。それからいま説明がありませんでしたが、この崖線保全再生施設一覧表というのが付いていますね、これは実は大変な労作です、国分寺市の松本部長さんが中心になってつくられたということで。実は野川の流域連絡会の第1期に同じような水と緑にかかわる都市マスを全部集めて比較表を作るという作業をやっています、これは行政の委員を中心になってやった作業なんですね、最近ちょっと行政委員の働ける場所が充分用意できていないのかなという事はあるんですが、これはとても良い参考資料といえますか、これに合わせて野川の施策というものも合わせていくと、とても良い資料になるのではないかなと、そんな気がしました。その補足を地元で頑張られた〇〇さんがいらっしゃるので、補足をお願いしたいのですが。

団体委員 国分寺市の〇〇です。資料ナンバー7の2枚目の資料をご覧ください。11月10日に開催された第2回・国分寺崖線保全再生フォーラムの資料です。これは国分寺市都市計画担当の部長が中心になってまとめたものです。東京都と国分寺崖線沿いの10の市区の国分寺崖線保全再生施策が網羅されており、これをご覧になると世田谷区の国分寺崖線保全への施策が素晴らしいということが、お判りになると思います。それで、ここで申し上げたいことは、

国分寺崖線と野川は別々の存在ではなく、国分寺崖線あつての野川だということです。ですから、野川流域連絡会と国分寺崖線フォーラムとの連携が大変大事だと思っています。現在、野川の管轄は北南建と北北建とが担当しているわけですが、野川最上流部である国分寺市を流れる野川の管轄は北北建になっています。今まで野川の維持管理を主に考えて、そのように分けられていたのではないかなと思っています。しかし、野川はあくまで一筋の川として流れているわけです。地盤調査、地下水位の調査など上流部から下流部へ向かって連続して行っていただかないと再生ということには繋がっていかないような気がします。その点で、是非とも野川流連の中での行政の連携を強くお願い申し上げたいと思います。それから、もう一つご案内させていただきます。第2回・国分寺崖線保全再生フォーラムでは会場ロビーで崖線パネル展示がありました。ただ、午後の部は時間割が大変窮屈で、せっかくのパネル展示を時間をかけゆっくりご覧になることができませんでした。そこで国分寺崖線パネル展示セッションと意見交換会を開催することになりました。12月11日火曜日と大変差し迫っております。会場は国分寺駅ビル8階のLホールです。午後1時から展示開始、午後6時から意見交換会です。主催は法政大学エコ地域デザイン研究所です。私ども国分寺・名水と歴史的景観を守る会も協力させていただくことになっております。エコ研の展示パネルは大変力の入った展示パネルでしたし、市民活動団体それぞれに、なかなかユニークな展示が出ておりましたので、お時間がある方はぜひご出席いただきたいと思います。チラシがありますのでご希望の方にお配りいたします。以上です。

座長 はい、ありがとうございます。私の所属しておりますエコ研で展示したパネルというのが、学科を超えて3つの研究室のマスターですかね、学生さんが一生懸命作ったという、ちょっと珍しい形で、大学の内部的には画期的なことだったのですが。国分寺はすごくレベルが高いから変な物をつくったらバカにされるよと脅しておいたらすごく頑張ってくれたのですが、一言も発言できる機会がなかった、とても気の毒だったものですから、ぜひ市民とディスカッションをする場を設けたいという事でそんな企画をしたんですね、ぜひお近くの方は参加してください。面白い話になると思います。

(3) 野川に関する調査・研究状況報告

○座長 そうしましたら次に、これも大事な話ですね、野川に関する調査研究報告ということで土木技術センターの川合さんがこのところずっと参加していただいていますので、ご報告をお願いしたいと思います。

土木技術センター 土木技術センターの川合です。いまお話を聞いていて思ったのは早くからこの流域連絡会に関われば本当に良かったということです。私どもセン

ターの関わりは、平成15年度からですので、まだ本当に駆け出しということになります。ただ私どもは地下水や地盤の調査をやっていましたので、皆さんのやっていることと分野が少し違ったという事で、多少の役に立てるのかなと思っています。私どものセンターで出している報告を持ってきました。中身は言葉などもわかりづらいと思いますので、およそどんな事を言っているのかをご理解頂いて、後でお電話など頂ければ、お答えさせていただきたいと思えます。今年度の2つの報告です。最初の報告ですが、これは小金井市のJRから南の武蔵野公園あたりまでの地質の様子と地下水の様子を調べたものです。当然真ん中に国分寺崖線があります。その上の部分・武蔵野面と下の部分・立川面の地質と地下水の関係をまとめたものです。細かくやればまだまだわからない点がいっぱいあるのですが、大まかな様子という事でご覧いただければと思います。解った結果は41ページになります。図-6が地下水の入っている入れ物、砂利層の分布図です。上の面は武蔵野礫層、下の面が立川礫層になります。両方の礫層の一番下の構造がこんな形をしているのではないかという事が解ってきました。これはボーリングのデータを集めて砂利層の一番下の面の深さをずっと引っ張っていくとだいたいこんな分布図になります。その特徴の一つは武蔵小金井駅の南に、ちょうど南方向に少し開いた感じの等高線になっていますが、これがひとつ地下水の入れ物の形になりますので、崖線から湧いている湧水の涵養域の形を示しているのではないかと考えています。また、その北側に白い点線で囲まれたところありますが、これは砂利層の中にある粘土層の分布範囲です。次に述べますが、実はこの粘土層の上面に地下水が貯まっていますので、このあたりの地下水位が少し高くなっているのが解ってきました。下の段丘面ですが、真ん中辺の小金井新橋付近が周りに比べて少し低くなっている、何か凹んでいる感じの所がある事も解ってきました。そして、その西側と東側でちょっと等高線の形が違ってきます。次のページの第8図が地下水面図になります。冬場の3月期の地下水面図ですが、図-6と結構似ているのかな、という感じになります。武蔵野面については、先ほど述べたように、ちょうど中央付近で地下水位の高いところがあり、そこを中心に3地域に分かれています。地下水は等高線に直角に流れることになりますので、北側の地域の地下水がこの中央の峰を超えて南側に流れてくるのは難しい、と思われれます。もう一つ、45ページの図-9になります。これが野川沿いの地下水の状況です。上流側が鞍尾根橋ですが、この辺りは本当に地下水位が低く、河床から5、6メートルぐらいあります。夏の地下水位の高い時にも野川の河床には到達しないというのが解ってきました。下流になるに従って河床が低くなり、地下水位との関係では上がったたり下がったりというのが小金井新橋付近になります。更に下流では、地下水位の方が高くなり、二枚橋下流ではじわじわといつでも地下

水が出てくるような感じだということが解ってきました。少し長くなってすいません。次の資料です。センターでは小金井新橋で長く流量観測をしていますが、そのデータを使って調べたものです。私どもの河川緑化調査係の高崎がまとめたものです。雨は降った後、すぐに川に出てきたり、地下に染み込みじわじわと出てくるものなどがありますが、タンクモデルを使って、水涸れ問題との関係を調べたものです。コンピューターでいろいろな計算を長時間やるものですから、私自身は、よく解らないのですが、計算を何回もやって、現実の野川の流れに合うようにモデルをつくっていきます。その結果いろいろな事がわかってきた、ということです。たとえば、小金井新橋付近はよく水涸れになりますが、時期でいうと、5月頃に起こる頻度が高いのではないかとということがわかりました。もう一つは、第9図になりますが、ある月に雨が降って、その後何日間か雨が降らないと、何日後に水涸れが起こるよ、というような事も解ってきました。ちなみに、今年はなかなか水が涸れなかったという事ですが、一昨年の暮れにかなり大雨が降りましたので、その影響がまだ残って、5月を乗り越えたのではないかと、というようなことです。すいません、ちょっと長くなりましたが以上です。

座長 はい、ありがとうございます。このデータについては聞き始めるといろいろ出てきてしまうので、これはちょっとと思いますが、なにかご意見ありますか。

都民委員 すいません、これは一昨年の暮れと仰いましたが。

土木技術センター すいません、去年の12月です。

座長 他にはよろしいですか。最近の野川の地下水の調査の傾向として、一昔前とはだいぶ違う傾向が出てきているというのが川合さんの調査研究から解るといふことで、なかなか大事な話なのかなと思っていますが、よろしいでしょうか。

(4) 野川における工事状況と予定

○座長 そうしましたら、報告を続けたいと思います。野川の工事関係の予定ですが、これは事務局でいいですね。

事務局 第二建設事務所の張元と申します。9番の資料を見てください、野川における主な工事状況ということで、二建と世田谷ですか、野川の下流部の方になりますが、この四角く囲った工事の内容が書いてありますが、その左側の所から までです。 については世田谷区の工事で、 は図面の真ん中、一番下の方に世田谷区橋架替え工事と書いてありますが、いま工事中でして、野川水道橋ですね。水道の専用橋だったのですがそれを架け替えて車が通れるような橋につくりかえる、それに合わせて隣の護岸の整備工事を世田谷区に施工を委託しております。それで真ん中辺、上の方に世田谷区とありますが、階段設置工事を2箇所やるのと河床整正工事という維持工事ですね、土砂が貯ま

っているんです、この土砂を除去する工事を行います。それから図面の右側の方に4つ程ありますが、上の方から8番6番7番4番ですか、この6月30日に皆さんのご協力もありまして野川の最下流部の完成を祝う会を開催しましたが、その上流からだいたい東名高速道路新井橋という橋がかかっていますが、その間、4本の工事が出まして、もう設計書が出来上がったのですが、この前これと同じ資料を出しておりましたがそれよりも遅れておまして、だいたい12月から2月にかけて契約をして、今年度もう2、3ヶ月しかありませんが、来年度いっぱいにかけてこの間の護岸の工事を行います。そうしますと、最下流部から新井橋までの間がほとんど出来まして、来年度はあと1本工事を出しますと護岸が完成していくという形になります。それでなぜこの工事が遅れたかといいますと、ちょっと長くなって恐縮なんです、一番下に護岸整備工事その110の2となっていますが、なぜ2となっているか、その110というのを8月に設計書を作りまして契約手続中に8月28日の雨が降りまして、その時に1時間45ミリ、総降雨量が45ミリだったのですが、たったそれだけの雨だったのですがこのまさに工事を実施しようとした、この吉沢橋上流の左岸が約60メートル護岸が崩壊しまして災害が発生してしまいました。その復旧工事に2、3ヶ月かかりました。状況が変わったので設計書の方も作り直すということが発生しました。その関係で全体が遅れているという状況です。来年度までにはほとんど終わっているという状況です、以上です。

事務局 世田谷区ですが、二建さんの方で説明頂いた通りです。うちの方は3点ですね、真ん中の下にある橋梁架替え、これも水道橋、それから右の上の方の河床整正、ドブさらいになると思いますが、それから真ん中の上から2番目の階段設置の3点になります。これもほとんど今月発注予定で年度内、来年の3月までには終了予定です。橋梁の方も去年からやっておりますが、来年三月には終わる予定でいま進めているところです、以上です。

事務局 中上流部の工事につきまして北南建の事務所から報告させていただきます。9番からになりますが、9番野川大橋ということで昨年度から工事をいたしておりまして27年度まで、道路工事として架替え工事を実施しております。10番ですが、階段護岸工事と書いてありますが、馬橋の上流側右岸のところ階段、河床に下りられるような階段を設置していく予定です。こちらにつきましては契約になっておまして、まだ現地の方では作業をしておりませんが年内、年明けてしまうかもしれませんが着手していくという予定になっております。11番ですが御塔坂橋になります、これもいま、去年から架替えをやっておりますが来年度20年度いっぱい終わるということで、道路工事という事でやっております。12番ですが、こちらは先ほどの自然再生事業の中の一つの工事となりますが、調節池の中に水を引き込むための工事を実施するという事で、

1月の上旬頃契約の予定で最終的な事について詰めている段階でございます。
13番貫井大橋付近と書いてありますが、工事の時に河床が一部高かったという所がございまして、その河床を下げる、計画断面に合わせる工事と併せて粘性土張りをやっていくという工事を予定しております、これも12月の半ばごろに請負業者が決まるという事で実施する予定でございます、以上です。

座長 はい、ありがとうございます。その他のというのは、事務局の方はよろしいですか。工事報告に関して各地域で特に聞いておきたいこととかありませんか。上流で少し意見があった話もありましたが、そちらの方は大丈夫ですかね。

都民委員 今回の工事の説明の中で13番ですね、これは2、3ヶ月前に流域連絡会の中だったのでは、お話しが北南建さんからありました。それで水環境分科会としてはやはりこの辺の川の環境という事もひとつあるのですが、非常によい環境なものですからあまりいじりたくないという事が一つ。それからもう一つはここに張る粘土が野川の大沢の粘土ではなくて何か別なところから持ってきて、そのテストも兼ねてやるというお話しがあったんですね。その辺についてはやはり何らかの形で地域住民との話し合いといいますか、そういうものが必要なのではないでしょうかというお話しを我々としては出した筈なんです。もしもその話の該当地区であるとすればやはりここで一言いわせて頂かないといけないのではないかという事で質問させていただきます。

座長 はい、多分それを受けて修正されたんだと思うので、それについて補足をお願いします。

事務局 水環境部会の時に一度そのようなお話しを頂きました。その後、我々としてもまた考えまして、まず粘性土張りの材料につきまして、水環境分科会の時に提案させて頂いたかったのは、ちょっと人工的な水涸れ対策として効果があるものをやってみたらどうかという事で、人工粘土といわれる、人工とか言っていますが砕石の細かいものを固めたようなものを川の底に貼ってはどうかという、それを試験施工したいという事で申し上げました。申し上げたのですが、実際にいろいろな事を検討しまして、昨年度自然再生の所で使っておりました荒木田、自然再生の田んぼの所で使いました荒木田土を河床に貼るという事で、実績もあるという事でやっていきたいと考えております。また河床を下げるという事に関しましては河床の断面が足りないという事で、確かにそこは河床が高いようですね。川が非常に深く掘れているという意味で、他との形状がだいぶ違うということと言われると非常に他と違うという意味で環境が良いように確かにそれは言われるところはあると思います。ですから河川の断面として、必要な断面がないという事でこれは河川管理上はどうしてもやらせて頂きたい工事という事でご理解頂きたいと思っております。

座長 はい、ありがとうございます。そんなような流れだったと思いますので、な

かなか河川工事自体は難しい局面がいろいろ出てくるかと思いますが、ここでそれをまたやり取りすると難しくなってしまうと思いますので、今日はそれをご報告頂いたという事で、一応土質、粘土についてはそういう対応をして頂いたという事ですね。

(5) 今後の予定・その他意見

○座 長 はい、そうしましたらこちらの事務局関係の報告が一通り終わりました、今後の予定という事で残っていますので、お願いします。

事務局 すいません事務局からの連絡です。番号は打っていないのですが、今後の予定としましては12月18日に小平市内の用水路調査と併せて水環境分科会の開催が予定されています。当日は小平市役所の正面玄関に13時50分集合で、小平市の状況説明を聞いて、その後市内の用水路調査を行い、北南建に戻って水環境分科会を開き、年も押し迫ってきましたので出来れば懇親をかねて忘年会を行いたいというようなお知らせをさせて頂いております。生きもの分科会につきましては、まだお知らせを出していませんが1月7日の予定です。それから先ほども出ました、1月20日に「野川の生きもの観察会」を開催する予定です、区市の広報に載せて頂きまして一般の皆さんの参加も募りまして冬期の「野川・生きもの観察会」を行う予定になっております。委員の皆さんにはスタッフという事でご協力頂きたいと思っておりますので、参加可能な方は事務局にご連絡頂ければ助かります。今後の予定としてそこまで決まっております、よろしく申し上げます。

6 ま と め

座 長 はい、ありがとうございます。予定の時間も来てしまいましたので、簡単にまとめて事務局にお返ししたいと思うのですが。第3期、行動型の第3期という事でスタートしたかと思いますが、それをどのようにして最後まとめていかなと思いつながら、今日は聞いていたわけです。1期の時には確かに模索の段階だと、それに対して2期でいろいろな計画や提案を何とかまとめるというような段階に入って、そこでちょうど河川整備計画ですね、野川の河川整備計画も出来たと言う事で、一つの区切りがついたような気がします。第3期はじゃあという事でいろいろな行動に移ろうという事で、結果的には生きもの分科会が頑張ったりとか、いろいろ外に出て行く活動が増えてきて、ネットワーク型の連携の広がりというものも出てきた、そんなふうだと思いますので、まずは行動型に少しシフトしましょうという事については何とか形になるのかなというように思います。今後さらにその先という事になると、今日最初にお話し頂きました山道さんのお話の、全国ではたくさん川づくりをしていると、野川についても、長い歴史も含めて、こういうかたちとかいい川づくりをたくさんやっ

ているという事を客観的に自己評価してみる、そんな事も必要になるのかと思います。そういう意味でも少し頑張って川の日にも応募してみるなどという事があってもいいかと思うんですね。今までわんぱく夏祭りが1回確か応募しているんですね、それでも一つのイベントでしたが野川が一つの流域として応募すると、何かこれは全国的にもかなり内容があるものになるのではないかなと思います。そんな事でやってきた活動にも自信を持ちながら第3期を締めくくる事に向かいたいと思います、今日はどうもありがとうございました。それでは事務局に渡したいと思います。

7 閉 会

事務局 はい、大変長時間にわたりまして、たくさんのご報告、ご議論ありがとうございました。山道先生からも全国の市民活動等の貴重なお話しも頂きましたし、また各分科会、あるいは部会からもこれだけの大変様々な活動をしているというのが解ったわけですが、今後につきましてもいま野川の日のお話しも出ました。あるいは連携の話、大変皆さん方からご意見がございまして有意義な会になったと思います。長時間にわたって進行頂きました座長、大変ありがとうございました。それでは今後とも流域連絡会への皆さま方のご協力をお願いしまして、本日の会を閉会したいと思います。本日は大変ありがとうございました。